



「できることを、しよう」  
「わー、アサリがいっぱい」。今年5月、松尾漁協は地元の松尾西小学校の児童をアサリ採り体験に招待しました。

船で渡る沖合いの干潟でのアサリ採り。ここでは、くま手でひとかきするだけでアサリがごろごろ。子どもたちは大喜びでした。

しかし、平成6年から3年間、松尾漁協ではアサリの水揚げゼロの状況がありました。「海が変わったのは、川や海の汚れが原因なのかもしれない。その意味では漁民は被害者。だが、漁民もアサリを採り過ぎていた」と話すのは、



同漁協の黒田正明組合長。「アサリの海を取り戻すため、自分たちでできることをしよう」と、

平成10年から「アサリの管理漁業」を始めました。これは、アサリの収穫時期や収量を徹底的に管理するもので、「組合員の意識改革が大切」と、組合員がおかず用にとアサリを持ち帰ることも禁止する徹底ぶりでした。



### アサリ自身が自分の棲む環境をつくる

「5年間で答えが出た。去年はエイにやられて140トンだったが、その前年は249トン。今年は3月からの3カ月間ですでに前年分の収量があります」と言う黒田組合長。「アサリを採り尽くさないでないと、アサリ自身が水質を浄化して自分で棲む環境をつくり、それがカニやアナゴなどほかの生物にとってもいい環境となる。そして、来年もまたアサリが採れる。だから私たちは今、海と相談しながらアサリの収量を決めるんです」。アサリを核とした海の再生、自然との共生に確かな手応えを実感されています。

松尾漁業協同組合 組合長

黒田 正明さん

「海と相談しながらアサリの収量を決めるんです」



## 海の再生をめざして

### 有明海と八代海での挑戦

「アサリが採れなくなった」「海が汚れている」近年海で異変が起きています。そんな「海の悲鳴」に耳を澄まして、今、海を再生する取り組みが有明海と八代海で行われています。徹底した「アサリの管理漁業」で豊かな干潟を取り戻しつつある熊本市の松尾漁業協同組合と「カキ殻を使った水質浄化」に取り組む八代市の「次世代のためにがんばる会」の事例を紹介します。

次世代のためにがんばる会代表 松浦 ゆかりさん

「美しい川を取り戻して子どもたちに残したいんです」

清らかな水の流れが美しい海への第一歩

「子どもたちが進んで川に入るようになりました」。カキ殻を使った河川の浄化活動に取り組む環境ボランティアグループ「次世代のためにがんばる会」。地元の漁港などで拾い集めたカキ殻を宮地小学校脇の新川に入れたところ、見違えるほど水がきれいになりました。カキ殻の成分であるカルシウムや付着している微生物が、河川の浄化に役立つのです。「幼いころの川は水が澄み、たくさんの魚やホタルが見られました。ホタルが乱舞するような美しい川を、子どもたちのために取り戻したいんです。また、河川の下流域にある八代市は、八代海に広く面しています。河川の浄化は、少しずつ八代海の再生にもつながっていくと思います」と話すのは、同会代表の松浦ゆかりさん。



大切なのは一人ひとりの心掛け

月1回の活動には、地元の子もたちが率先して参加します。「子どもたちが生き生きと作業をするのが何よりうれしいし、励みにもなりますね。環境問題は、机上論ではなく、実際に体験することが一番」と言う松浦さん。「だれでも気軽に楽しく参加できることが、皆さんに受け入れてもらえたのではないのでしょうか。私たち自身も、皆さんの力を借りながら楽しんでやっています(笑)。活動を通じて、地域の方々の川への関心も高まりました。大切なのは、活動に参加するだけでなく、ゴミなどを流さないなど皆さん一人ひとりのちょっとした心掛け。それが、美しい川を取り戻す第一歩ではないのでしょうか」。広大な海の再生も、私たちの身近な水を汚さないことから始まっています。



「次世代のためにがんばる会」<http://ganbarokai.tripod.co.jp>

### 熊本県では...

県では、有明海・八代海の再生に向けたさまざまな取り組みを行っています。その一つとして、県民の皆さんとのパートナーシップによる「みんなの川と海づくり県民運動」を進めています。8月24日(日)は県内各地で清掃を行う「みんなの川と海づくりデー」です。皆さんのご参加をお願いします。

お問い合わせ先

熊本県環境政策課環境立県推進室 有明海・八代海再生推進班

☎096-383-1111(内線7325) FAX096-383-0314 電子メール kankyouseisaku@pref.kumamoto.lg.jp